

[太陽エネルギー利用技術と農林水産業の融合]

地表の垂直面に平約1 kWで放射される太陽エネルギーの利用法としては、太陽エネルギーを直接熱として利用する方法、あるいは電気に変換して利用する方法、もしくは同エネルギーを生物の力を利用して化学エネルギーに変換したバイオマスを利用する方法、地表面の土壌や大気や水に一旦熱エネルギーとして蓄えたものをヒートポンプで利用する方法、大気や地表水や海洋水などの流体の運動エネルギーや位置エネルギーとして蓄えられたものを間接的に利用する風力・水力・潮力（波力）発電による利用法などがある。これらの技術は小規模・地域分散型であり、同じく地域に分散する農林水産業との親和性が高く、地域分散型循環社会の構築による地方再生には欠かせない技術と考えられます。工業系の分野で発展して来た太陽エネルギー利用技術の農業分野への応用は、ハウス栽培については長い歴史があるものの、その他の技術については近年緒に就いたばかりであることから農工融合分野の最先端の研究事例を知る機会として本講演会を企画しました。

主催：一般社団法人日本太陽エネルギー学会 太陽光化学・バイオマス部会、太陽熱部会、太陽光発電部会

協賛(申請中)：農業施設学会, 一般社団法人日本木材学会, 一般社団法人日本エネルギー学会

日時: 平成29年3月14日(火) 13:00~ 18:00

会場: 東京理科大学森戸記念館・第1会議室(JR 飯田橋駅徒歩6分/神楽坂・毘沙門天向側の福屋・鳥茶屋路地20m)

定員: 60名(先着順)

参加費: 会員 5,000円(協賛学協会員を含む), 非会員 10,000円, 学生 2,000円(テキスト含む)

参加方法: 参加申込書またはホームページ掲載の申込書にご記入のうえ、日本太陽エネルギー学会事務局まで

E-mail, FAXにてお送りください。参加費は出来るだけ事前振込をお願いいたします。

[振込口座: 三菱東京UFJ銀行・新宿中央支店・普通・3227375 [イッパシヤダシホクジエネキカガクイ]

お申し込み者への参加証等の送付はありません。当日会場までお越しください。

申込期限: 平成29年3月7日(火)

問い合わせ先: 日本太陽エネルギー学会 事務局 電話 03-3376-6015 FAX 03-3376-6720 E-mail: info@jses-solar.jp

講演プログラム (講演者敬称略, 演題名・講演者・講演順変更になる場合があります)

13:00~13:05 開催挨拶 (司会)	国立研究開発法人森林総合研究所 埴 藤徳
13:05~13:50 太陽エネルギーを多面利用する高度施設生産技術	国立研究開発法人農研機構* 中野明正
13:50~14:35 地中熱や水源を熱源としたヒートポンプの農業への応用 (仮)	国立研究開発法人農研機構* 奥島里美
14:35~15:20 日本の農業におけるバイオマスの利用技術 (仮)	国立研究開発法人農研機構* 薬師堂 謙一
15:20~15:30 休憩	
15:30~16:15 CO ₂ 冷媒ヒートポンプによる省エネ木材乾燥技術	国立研究開発法人森林総合研究所 斉藤周逸
16:15~17:00 有機薄膜太陽電池のハウス栽培への応用の可能性 (仮)	諏訪東京理科大学 渡辺康之
17:00~17:45 水耕型ソーラーシェアリングの可能性	千葉工業大学 久保裕史
17:45~17:50 閉会挨拶	一般社団法人日本太陽エネルギー学会太陽光発電会長/日本大学 西川省吾 *農業・食品産業技術総合研究機構

.....参加申込書 [FAX 03-3376-6720 E-mail: info@jses-solar.jp]

「太陽エネルギー利用技術と農林水産業の融合」	
参加者(複数名記入可):	
勤務先/学校名:	
住所: 〒	
電話番号/FAX:	
E-mail アドレス:	
会員種別 <input type="checkbox"/> 会員(主催・協賛学協会) <input type="checkbox"/> 非会員 <input type="checkbox"/> 学生会員	
請求書 <input type="checkbox"/> 不要 <input type="checkbox"/> 必要(請求書宛名) 領収書は来場時にお渡します	